

# 小田原市における地球温暖化対策 ～エネルギーの地域自給に向けた取組～

**小田原市長 加藤 憲一**

2017.11.24 公開セミナー「地域初の未来の形～国との連携で進める地域版2 目標に向けた取組」

# 1. 小田原市の紹介

箱根連山に連なる豊かな山林

重要里地里山に選定された久野地域の里山

小田原のシンボル  
・小田原城

酒匂川から見える富士山

市の南側に構える雄大な相模湾

小田原漁港で水揚げされる魚

小田原の伝統工芸・寄木細工

こうした豊かな自然環境を守り、次世代に引き継いでいくために、当市では持続可能なまちづくりに向けた取組を推進。とりわけ、非枯渇性の再生可能エネルギーの利用、地球温暖化に対する様々な取組の促進が極めて重要。

# 2. エネルギーの地域自給に向けた小田原市のこれまでの取組

## 市民・事業者

## 小田原箱根エネルギーコンソーシアム立ち上げ

ほうとくエネルギー株式会社の設立



協議会には市民、地元金融機関、  
商工会議所、エネルギー会社等が参加

メガソーラー市民発電所竣工



2017.7

エネルギーの地域自給の促進に係るモデル事業に関する協定を締結

2016.8

2016.11



日独自体連携プロジェクトの一環で、ドイツオスナブルック市と意見交換を実施



2014.10

2014.4.1

小田原市再エネ条例施行

- ・再エネ事業奨励金の交付
- ・「市民参加型」事業の認定

2012.12.11

小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会の設立

東日本大震災、市内においても計画停電等の影響

2011.12.7

2011.3.11



## 小田原市（行政）

地域エネルギー事業者の設立

再生可能エネルギーによる分散型電源の創出・拡大

地産電力の供給体制の構築

市民出資を取り入れた市民参加型再生可能エネルギー事業の創出から着実に歩を進め、今年7月には創エネ、蓄エネ、エネルギーマネジメント（VPP）を組み合わせ、**“エネルギーの地域自給の促進に係るモデル事業”**の協定を締結。

### 3. エネルギーの地域自給の促進に関するモデル事業

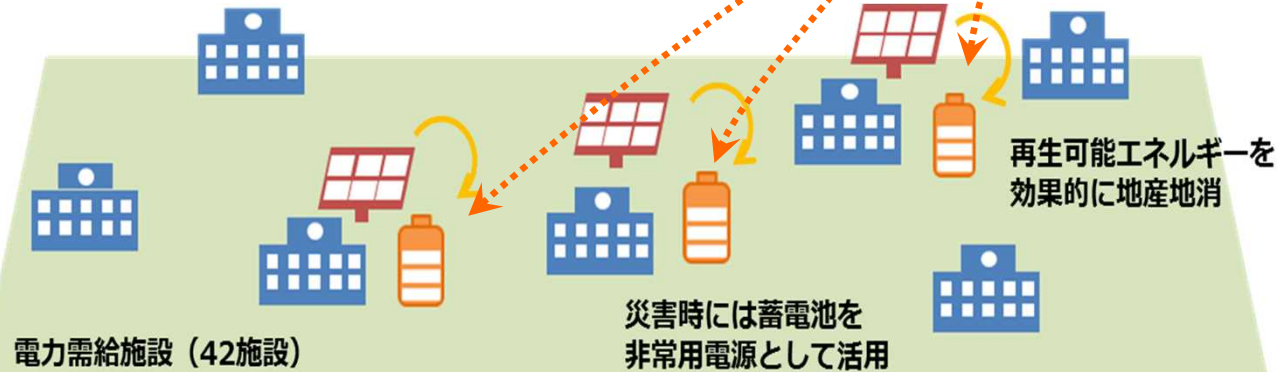
エネルギーマネジメントモデル事業では、市立小中学校、幼稚園を対象とし、エネルギーコストの削減だけでなく再生可能エネルギー発電設備の導入や、将来を見据えたVPP技術によるエネルギーマネジメントの市内導入を行った。

#### <エネルギーの地域自給の促進に関するモデル事業に関する協定>

##### 小田原市

市は民間資金・ノウハウを活用して、初期負担なく事業を実施

蓄電池を遠隔群制御し、電力利用を効率化（VPP）



公募により選定、電気需給契約を締結

電気料金を削減

再エネ設備等を設置



小売電気事業者

電気料金の削減を図りつつ、蓄電池や太陽光発電設備の導入、さらにはエネルギーマネジメントを実施するスキームを提示した上で、広く事業者の公募を実施。

電力小売部門の完全自由化により生まれたエネルギーコストの合理化効果を市内への新たな再エネ・省エネ投資に向けながら、競争環境の中で地域への還元を競うモデルを構築。

# 4. 今後の方向性（地域からの温暖化対策の推進）

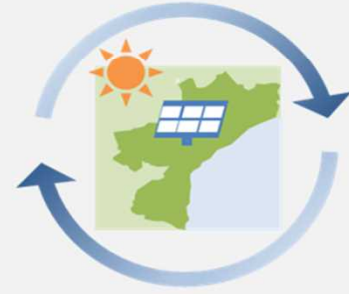
## エネルギーの地域自給・地球温暖化対策の推進

### 豊かな自然環境の保全



森里川海がひとつらなりの豊かな自然環境

### 地域経済への還元・好循環の創出

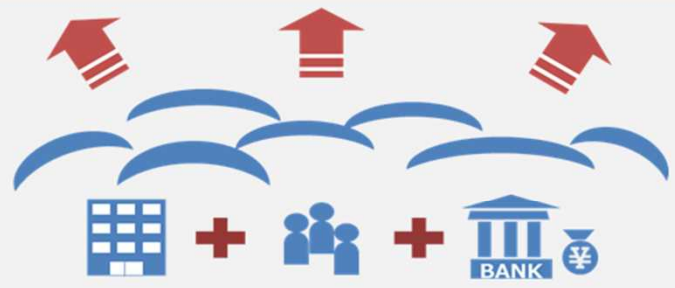


再エネ省エネ投資の好循環



エネルギー収支の改善

### 市民・地域の力の最大限発揮



民間のノウハウを活用した迅速な事業実施  
多くの市民・事業者の参加・巻き込み・相乗効果

### 地域の課題解決

地域の課題解決と密接に関係した  
地球温暖化対策の推進



**地域から温暖化対策に取り組む意義**

小田原市の地域特性を踏まえ小規模ながら地域課題の解決と結びついた、  
地域からの地球温暖化対策の推進に資する取組を引き続き実施していく。